

| | | | | |
|-----------|------------|------|----|----|
| 講義名 | オ)地域再生論 | | | |
| 担当教員 | 岸野 啓一 | | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 2時限 | 授業形態 | 講義 | |
| 履修開始年次 | 3年生 | 単位数 | 2 | 備考 |

主題と概要

我が国は、社会経済システムの大きな転換期にある。地方分権、地域主権への構造改革も確実に進展していくが、より自律的な地域経営について、新しい手法の確立が求められている。本科目では、まず、現在の主要な地域課題を概観し、地域課題とはそれぞれの政策分野の枠を超えた横断的な問題であることを理解する。そのうえで、その総合的・創造的な解決策について考える。今後は、市民、起業、NPO等も公的サービスを担う社会に変化していくことから、卒業後に公務員職には進まない学生にとっても、これからの社会システムについて理解を深め、将来、仕事や生活の面で役立つ講義とした。

到達目標

(1) 地域再生が必要となった背景や地域再生の取り組みに関する最新の諸事例の解説を通じ、地域再生とは何かを理解できるようになる。
(2) その上で、地域再生の問題の捉え方やその基礎知識を学ぶ意義を理解し、その基本的な知識を習得できるようになる。
(3) これらの成果に基づき、地域課題の構造を簡潔に表現できるようになる。
(4) 地域再生の時事問題に対して自分の意見を述べることができるようになる。

提出課題

授業の視察確認と、授業の内容に関する理解を深めることを目的として、毎回、授業内容に関するレポートを課す。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

基本的に、次回の授業の際にレポートの講評や解説を行う。

評価の基準

前半・後半の2回に分けて、授業期間内に試験を実施する。
試験の成績を70点、平常点（レポート課題）を30点、合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

1. 積み上げ型の授業であり、毎回、必ず授業のビデオを視聴すること。
2. 授業内容は日常生活に関連するものが多く、レポート課題などに取り組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのために、レポート作成などを進じる復習を強く奨励する。
3. 公務員を志望する学生には、履修することを推奨する。

なお、授業のビデオについては、対面授業の際に録画したパワーポイント動画をYouTubeに配信（限定配信）することにより行う。

| | | | | | |
|-----|---------|--|--|--|--|
| 教科書 | .使用しない。 | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

プリント資料及び参考文献

対面授業で用いたパワーポイント資料や対面授業で配付した資料を、RYUKA Portalを通じて配付する。
参考文献は、授業の中で紹介する。

授業計画

1. ガイダンス、地域再生とは
2. 地域再生の社会的背景（1）自動車利用の進展と生活の変化
3. 地域再生の社会的背景（2）都市への機能の集中と過疎化の進展
4. 地域再生に向けた国の取り組み
5. 高齢者の生活を支える公共交通の再生
6. 地域が支える高齢者の住まい・まちづくり
7. 過疎地域における小さな視点の形成
8. 前半部確認テスト
9. 中心市街地の活性化
10. オールドタウンの再生
11. 観光振興による地域の再生
12. 先進自治体（1）兵庫県養父市、総合特区
13. 先進自治体（2）北九州市、マイナスからプラスへ、工業都市の挑戦
14. 先進自治体（3）久留米市、先進医療都市
15. 後半部確認テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート | エ：グループワーク |
| オ：プレゼンテーション | カ：実習、フィールドワーク |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容はできる限り授業中に理解することが望ましいが、授業の内容を確認し理解を深めることを目的としたレポート課題を課す。
このため、授業内容の確認とレポート作成に週2時間程度を充てる必要がある。
また、オールドタウン（高齢化が進むニュータウン等の住宅団地）やシャッター通りとなった商店街、観光や交流の促進により町の再生を図るうとする取り組みなど、実生活において「地域再生の現場」を目の当たりにする機会が少なくない。授業で得た知見をさらに深めるため、日々の生活の中において週2時間程度、地域再生と関連づけて自身の周辺で起こっていることを見つめ直すことを求める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、本学のディプロマ・ポリシーと次の点で関連する。
「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」のうち、
「主体的に学び、へこたれず、のめりを持った人材
知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
創造力、新しい視点と豊かな発想を持った人材
「経済学部 経済学部の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、
世の中の動きを理解して、経済問題を中心に現代社会の諸問題に解決策を提案することができる。
経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
国や地方自治体との業務において授業に関連する内容にかかわった経験がある。実務を通じて得た知見などを授業で伝えることにより、授業内容に対する理解を深めたい。

備考